



Title	大阪市におけるHIV検査・相談体制の向上を目指して ： 検査前ガイダンスに代わる効果的な媒体の作成
Author(s)	有馬, 和代
Citation	大阪公衆衛生. 2010, 81, p. 24-26
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83402
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大阪市におけるHIV検査・相談体制の向上を目指して ～検査前ガイダンスに代わる効果的な媒体の作成～

大阪市保健所 感染症対策担当
保健副主幹 有馬 和代

A. はじめに

大阪市においては、HIV感染者、エイズ発病者の新規報告数が増加し続け、東京都に次いで、患者数が多いため、エイズ対策を更に積極的に進める必要がある。

そこで、平成19年6月に「大阪市エイズ対策基本指針」を策定し、「5年間で新規エイズ患者報告数を25%減少させる」という目標のもと、具体的戦略を5つ打ち出している。5つの戦略の中には、「HIV抗体検査体制・相談体制の拡充」という項目があり、「各区保健福祉センターでの検査相談・カウンセリングを充実させる」という内容が盛り込まれている。

しかし、HIV検査を実施している4区保健福祉センターにおいては、他の業務も同時に実施しなければならないためマンパワー不足によって、HIV検査前相談時に専従の保健師を常設できない状況がある。

そこで、専従保健師の常設が無くても保健福祉センターでの検査事業が、受検者にとって有意義なものとなるため、検査前ガイダンスに代わる効果的な媒体を作成した。今回この媒体の効果検証を報告する。

B. 研究目的

今回作成した媒体が、保健師が実施する検査前ガイダンスに代わる効果的な媒体となっているかを検証する。

C. 研究方法

1. 媒体作成のプロセス

- ① 媒体作成のためのプロジェクトチームの立ち上げ
- ② プロジェクトチームの力量アップと媒体作成のための研修（6回）
- ③ 研修内容等を参考に媒体（以下：パネル）を作成（図1参照）

図1



2. アンケートによる作成パネル

北、中央、淀川、浪速区保健福祉センター、難波の栄ビル「Chot CAST なんば」（以下：一栄）でのHIV抗体検査に来所した者：

- ・4区保健福祉センター…各100名
- ・一栄…509名

【検証の視点・実施時期・比較対象】

1) 現在使用媒体での現状把握

- ① 北・中央・淀川・浪速区で1週間後の結果面接前（以下：知識伝達後）に実施

2) 作成パネルの効果の検証

- I 北・中央区で作成パネルを使用しての知識伝達後に実施
- II Iの（作成パネルの結果）と①の北・中央区（現状結果）を比較分析

③ ガイダンスに代わるパネルであるかの検証

- i ガイダンスを実施している一栄で知識伝達前・後に実施
- ii iの知識伝達後(ガイダンス実施の結果)とI(作成パネルの結果)を比較分析

【アンケート項目】

- ① HIV/エイズに対する正しい知識度を把握する項目
- ② 使用しているパネルの熟読度と満足度(わかりやすさ)を把握する項目

3. 効果検証のための評価指標と数値目標

① HIV/エイズの“知識度”(教育効果)

「HIVの検査について」「エイズについて」「HIVの感染方法について」の3項目で10の質問に対して、「正しい」「正しくない」「わからない」で答え、10点満点中の正答点数によって、受検者のHIV/エイズに対する知識度を測定する。1)～3)の検証の視点でとったアンケートでの正答点数を比較分析して新たなパネルの教育的効果を評価した。

(数値目標)

- ・ 新たなパネルで正答点数を15%改善する。
- ・ 一栄でのガイダンスの結果と同じ正答点数となる。

② パネルの使用“満足度(わかりやすさ)”

現在使用しているパネルの熟読度と満足度「内容のわかりやすさ」を把握し、新たなパネル使用時と比較分析を行い、新たなパネルの効果判定を行う。

(数値目標)

- ・ 新たなパネルで満足度が10%改善する。

D. 結果

①の知識度の評価結果は、表1のとおりで、一栄での知識伝達前は(7.72点)知識伝達後では、(9.47点)で正答点は向上して、 $P < 0.001$ と有意な差があり、保健師による検査前ガイダンスは知識伝達において効果的であった。一栄での知識伝達前の正答点数を、受検者が以前から知っている知識度として、4区保健福祉センターの改善前の知識伝達後の結果

と比較分析した場合、どの区においても、一栄での知識伝達前(7.72点)とは有意な差が見られたが、ガイダンスを受けた時(9.47点)ほど高い効果はもたせていない。

新たなパネル使用前後(表2)では、北区では、有意な差は認められなかったが、一栄の知識伝達前(7.72点)とパネル変更後(8.74点)では $P < 0.001$ で有意な差が見られ13.2%の改善が見られた。中央区では、使用前(8.81点)、後(9.31点)では $P < 0.05$ で有意な差が見られ、新たなパネルは知識向上に効果的であった。一栄の知識伝達前(7.72点)とパネル変更後(9.31点)では $P < 0.001$ で有意差が見られ20.6%改善でき、ガイダンス時(9.47点)に近い正答点数を出すことができた。②のパネルの使用満足度については、北区では、使用前「わかりやすい」が85.1%から96.8%に増加し、使用満足度は11.7%高くなった。中央区は、49.6%から84.2%に増加し、34.6%高くなった。

表 1

		平均値
一栄	知識伝達前	7.72
	知識伝達後	9.47
北	知識伝達後	8.63
中	知識伝達後	8.81
淀	知識伝達後	8.57
浪	知識伝達後	8.47

表 2

		平均値
一栄	知識伝達前	7.72
	知識伝達後	9.47
北	変更前・伝達後	8.63
	変更後・伝達後	8.74
中央	変更前・伝達後	8.81
	変更後・伝達後	9.31

また、パネルの熟読度「パネルを読んだ」は、北、中央区共に、「全部読んだ」が多くなり、中央区では「読んだ(全部・少し)」人(9.48点)と「読まない」人(7.80点)とでは $P < 0.001$ で有意差が見られ、パネルを読んだ人の正答点数は高い結果が得られた。(表3)

表 3

		北	中央
変更前	読んだ	8.92	8.95
	読まない	7.80	8.40
	合計	8.74	8.78
変更後	読んだ	9.02	9.48
	読まない	9.50	7.80
	合計	9.04	9.31

E. 考 察

これらの結果から、HIV/エイズの“知識度”(教育効果)においては、パネル変更後の平均点が、一栄のガイダンス後の平均点ほど高い結果をだすことはできなかったが、パネル変更後は、変更前より高くなっている。これは、変更後はパネルがわかりやすくなっているため、パネルを見た人の点数は変更前より高くなっている。

一栄での検査前ガイダンス(知識伝達前)の状況とパネル変更後の知識伝達後での改善度は、北区が13.2%、中央区が20.6%と改善度率の平均は16.9%であり、改善目標値15%には到達している。

これは、全部読んだ人が多くなっていることも、平均点数が高くなっていることに繋がっているとされる。

「全部読んだ」人が増えた要因には、「判りやすかった」ということと、読めるような「検査の流れ」や「場所の設定」も重要であり、パネル変更後においては、この点についても、北、中央区では工夫したので、「検査の流れ」「場所の設定」においても効果があったと思われる。パネル使用の“満足度(わかりやすさ)”は北区、中央区どちらも、パネルの変更後の方が「判りやすい」という答えが多く、北区では11.7%改善され、中央区では、34.6%改善されており、平均23.2%改善できている。改善後の満足度「わかりやすい」は、改善目標値10%に到達できている。

しかしまだ、「ややわかりにくい」と答える人がいるので、パネル内容については、もう少し改善する必要があると思われる。

F. 終わりに

以上のことから、「検査前ガイダンスに代わる効果的な媒体等を作成し、検査体制の向上をめざす」というテーマについて、作成プロジェクトチームをつくり、研修を実施することで、保健師の力量アップとパネルの内容を決定していき、ガイダンスに代わる効果的な媒体として、パネルを作成することができた。

平成21年度には、3区保健福祉センターの新たな媒体の作成や各区で啓発事業を実施する場合は、今回の研究で得られた結果を参考にする。

また、研修で学んだ内容は、平成21年度に陽性者支援用パンフレットの作成において、参考資料として活用していく予定にしている。

出版案内

問合せ先：(財)大阪公衆衛生協会事務局

TEL 06-6932-1458 FAX 06-6932-9788

(財)大阪公衆衛生協会編

「赤ちゃんを迎える日のために ～妊娠・出産から育児まで～」

本書は、これまで「お母さんになる日のために～妊娠から育児まで～」として出版していたものを、タイトルを改めるとともに、新たに母子保健専門機関の監修により、内容を更に充実いたしました。

本書は、主に市町村での母親教室におけるテキストとして使用されているほか、一部の病院でも活用されており、好評を得ております。

監修：大阪府立母子保健総合医療センター 著者：大阪府健康福祉部医師他

発行：(財)大阪公衆衛生協会 頁数：112頁 価格：720円(税込)